

このゼミ45年目にして初めてオンラインで報告を会場で聴くことに。そんな時になぜだかトラブルが起こるもの、突然切断、何とか再開でき、ホッとする

4月27日のゼミは、佐々木隆治「資本主義の最終発展形態「レント資本主義」」(『神奈川大学評論』99号2021/11)を竹内さんの報告で行いました。マルクスが予想できなかった脱工業化での延命・回復。労働運動弱体化と長期停滞でも金融投資で未曾有の収益。その解くカギは資本論第三部にあり、搾取強化と金融化。世界金融危機で金融収奪の限界・金融緩和の限界をレント資本主義・レントの一種、第三部地代は制約突破する。プラットフォーム・ビッグデータ独占で生産・流通・金融の超過利潤をレントとして収奪し、労働過程の包摂から生活過程全体を包摂し、人々の行動を制御・支配する体制を目指す。20世紀は冷戦・フォーディズムだが、21世紀は米中のレント収奪体制の争いとなる。しかし、環境危機は止められず、レント資本主義は資本主義の最終の段階となる。次に今野晴貴『賃労働の系譜学』10章を取り上げ、非正規雇用とブルジョアへと労働が二極化し、20世紀のフォーディズム型労務管理・労働運動が行き詰まり、ライドシェア・シェアエコノミー、ケアワーク労働運動、社会的企業や共同労働の促進、ユニバーサル・ベーシックインカム、労働市場規制への新しい労働運動を論じる。また『99%のための経済学』では、将来の選択としてプラットフォーム社会化への民主的所与と民主的管理・大衆運動が論じられている。最後に地代・レントに関連して、差額地代Ⅱのエンゲルス方式とマルクス方式の問題、絶対地代と最劣等地地代、鉱山地代、石油地代、さらに炭素税と地代、建設地地代と都市、独占利潤・独占地代の問題点を取り上げた。討論では、ここでは「レントの収奪」が出てくるが、収奪と搾取との関係は、地代は剰余価値からで収奪か。封建制では収奪、略奪とも。水も所有者がいて土地と同じ論理。日本では水は公有だが、「水独占」により民営化へ進むことも。プラットフォーム体制ではアメリカと中国の対決がある。油田など地下資源の国と癒着、米国は民営だ。出席は、高島さん、川口さん、斎藤さん(Zoom)、松村さん、竹内さん(Zoom)、山口さんと高田の7名でした。

* 5月11日(第2週)ゼミも、1時間早く、午後5時半から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 834 1854 1462 パスコード: 741876

* 5月11日ゼミは、芦田本第1部2章の残り、3・4節です。

***** ゼミ日程 *****

5月11日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

芦田文夫『資本に対抗する民主主義』I部2章: 3・4 報告・斎藤さん

5月25日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

マルクス『資本論』第3巻39章 差額地代の第一形態 報告・高田

6月8日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

芦田文夫『資本に対抗する民主主義』II部1章 市民社会と・・・報告者未定

その後 6/22, 7/13, 7/27: アイクルの部屋

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso